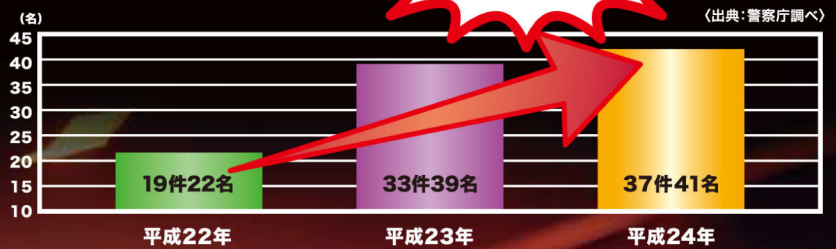


# 発炎筒が 命を守る。

高速道路上で後続車にはねられ  
死亡する事故が多発!

18件19名増



高速道路上での事故・故障で本線車道や路側帯に降車した人が  
後続車にはねられるといった事故が後を絶ちません。

発炎筒は、主に高速道路上での事故・故障などの危険を  
後続車のドライバーに知らせることで、  
あなたや同乗者の大切な命を守ります。

△ 発炎筒の有効期限を確認し、車検・点検時などに交換を行ってください。

日本保安炎筒工業会

後援:警察庁交通局・(一社)日本自動車整備振興会連合会・東日本高速道路(株)・中日本高速道路(株)  
西日本高速道路(株)・(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会・(一社)日本自動車連盟(JAF)・(一財)日本交通安全教育普及協会

# 発炎筒の有効期限は4年です。

有効期限切れの発炎筒は着火しづらかったり、炎が小さい等の問題が生じる場合があります。  
万が一に備えて、有効期限を確認してください。

## 有効期限が切れると



### 発炎筒の設置場所と使い方

発炎筒の設置場所を確認の上、一度手に取ってご覧ください。

発炎筒は主に助手席の足元にあります。



- 1 ケースとキャップをにぎる
- 2 発炎筒のキャップをひねりながら抜く
- 3 ケースにキャップ底栓を差し込む
- 4 白いキャップを抜く
- 5 すり薬でこすり着火する
- 6 すばやく道路に置き安全な場所に避難

※製造メーカーにより使用方法が異なります。

### 発炎筒の性能

- ① 燃焼時間：5分
- ② 視認距離：昼間600m、夜間2,000m(昼間は炎と煙で、夜間は炎で危険を知らせます)
- ③ 炎色：赤色炎

## 高速道路で事故や故障が発生したら？安全行動マニュアル

- 1 ハザードランプを点灯して、車を路肩に寄せる  
事故・故障が発生した場合は、ハザードランプを点灯させ、できるだけ路肩の中に車を納める。
- 2 発炎筒、停止表示器材を車両後方に置く  
同乗者を避難させ、発炎筒、停止表示器材を車の後方に置く。
- 3 ガードレールの外側などに避難  
同乗者と一緒にはガードレールの外側など、安全な場所に避難する。橋や高架上の場合は車の前方、もしくは非常駐車帯や非常電話のある場所に避難する。
- 4 非常電話か携帯電話で救援依頼をする  
1km間隔で設置の非常電話か携帯電話で救援依頼をする。携帯電話の場合、場所の特定のために道路名、上下別、本線・路肩にある数字(キロポスト)を伝える。

まずはクルマからでてガードレールの外へ

クルマの後方へ風圧でたおれないように

非常電話もしくは携帯電話から救援依頼する

携帯電話ならキロポストの数字を確認してから110番・道路緊急ダイヤル「#9910」に

できるだけ路肩の中に

クルマより後方で

ドライバーもガードレールの外に